

2011年12月期 第3四半期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社
代表取締役社長
吉野公一郎

JASDAQ

証券コード:4572

1. 2011年12月期 第3四半期累計期間の経営成績の概要 3
2. 2011年～2013年12月期 中期事業計画(マイルストーン開示)11

2011年12月期 第3四半期 連結累計期間 経営成績の概要

- ✓ 売上高は、前年同期を上回り、対前年同期比3.4%増
- ✓ 営業損失は、売上高の増加、売上原価率の改善等により前年同期より改善
- ✓ 経常損失は、営業損失の改善及び補助金収入の増加等により前年同期より改善
- ✓ 当期純損失は、CG社株式評価減(58百万円)の影響等により前年同期より悪化

(百万円)

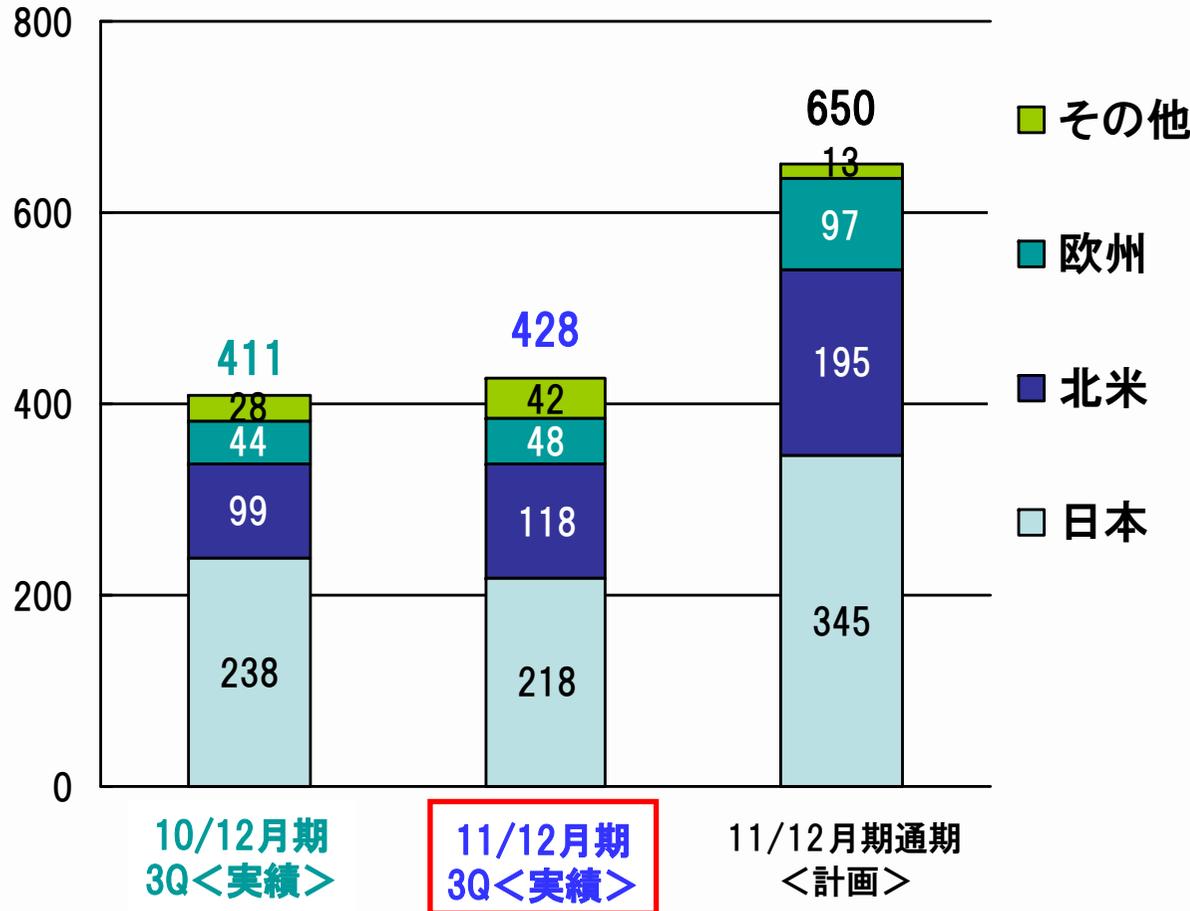
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
当期 第3四半期累計期間 (a)	447	△287	△232	△309
前期 第3四半期累計期間 (b)	432	△300	△269	△296
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	+14	+12	+36	△12
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	+3.4%	—	—	—
当期 通期計画値 (f)	770	△254	△200	△279
対通期計画比	△322	△33	△31	△29
対通期計画 進捗率 (a)/(f)	58.1%	—	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てして表示しております。

(注2) 当期通期計画値は、2011年8月5日発表の修正通期計画に基づいております。

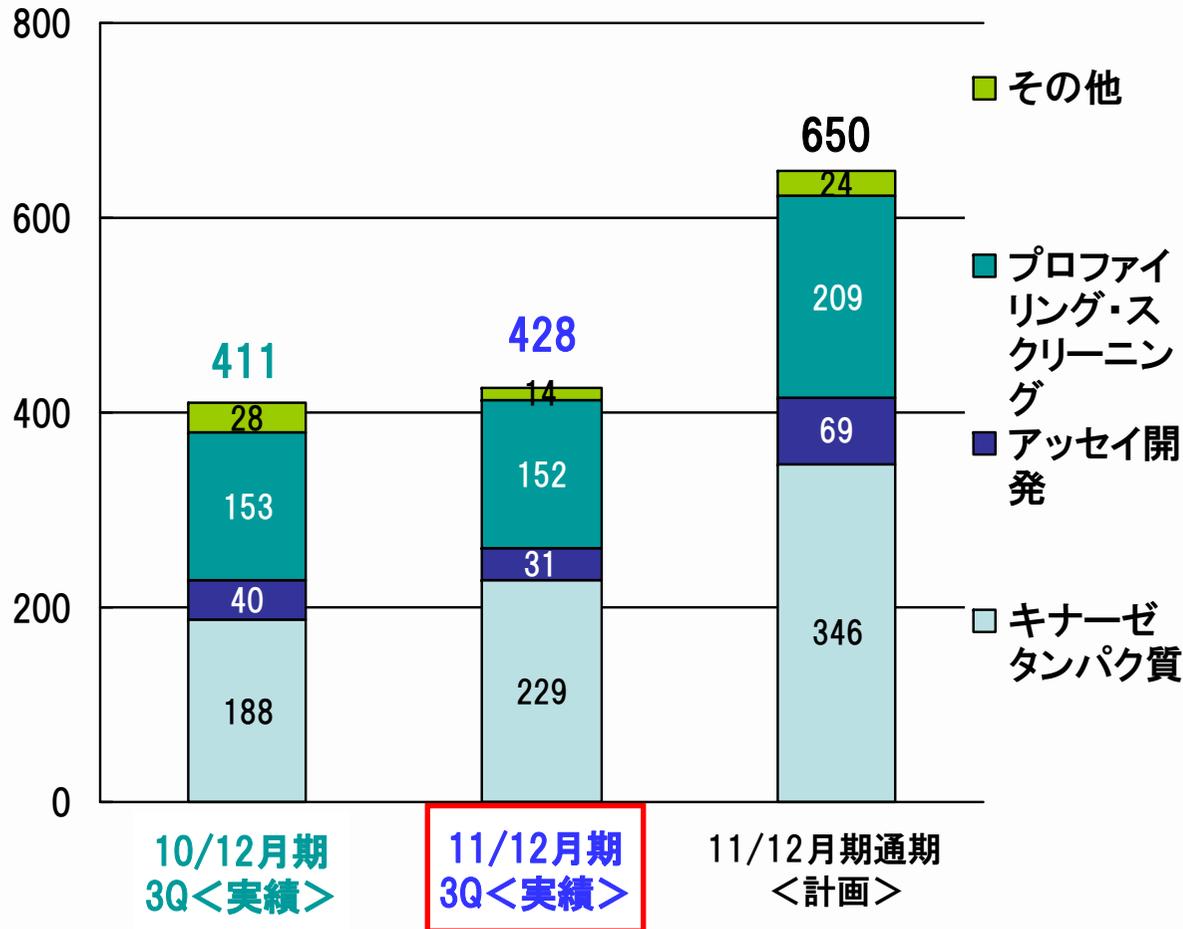
(注3) 対通期計画に対する進捗率における、「営業利益」「経常利益」「当期純利益」の値はそれぞれ損失を計上しているため数値を表示しておりません。

(単位:百万円) **地域別売上高(連結)**



- ・国内は前年同期比8.3%減
(対通期計画進捗率63.4%)
⇒東日本大震災の影響大
- ・北米は前年同期比18.5%増
(対通期計画進捗率60.7%)
⇒学術営業による顧客増
- ・欧州は前年同期比8.8%増
(対通期計画進捗率50.1%)
⇒売上は増加傾向
- ・その他は前年同期比52.4%増
(対通期計画進捗率329.8%)
⇒韓国でのバルクタンパク売上

(単位:百万円) 製品別売上高(連結)

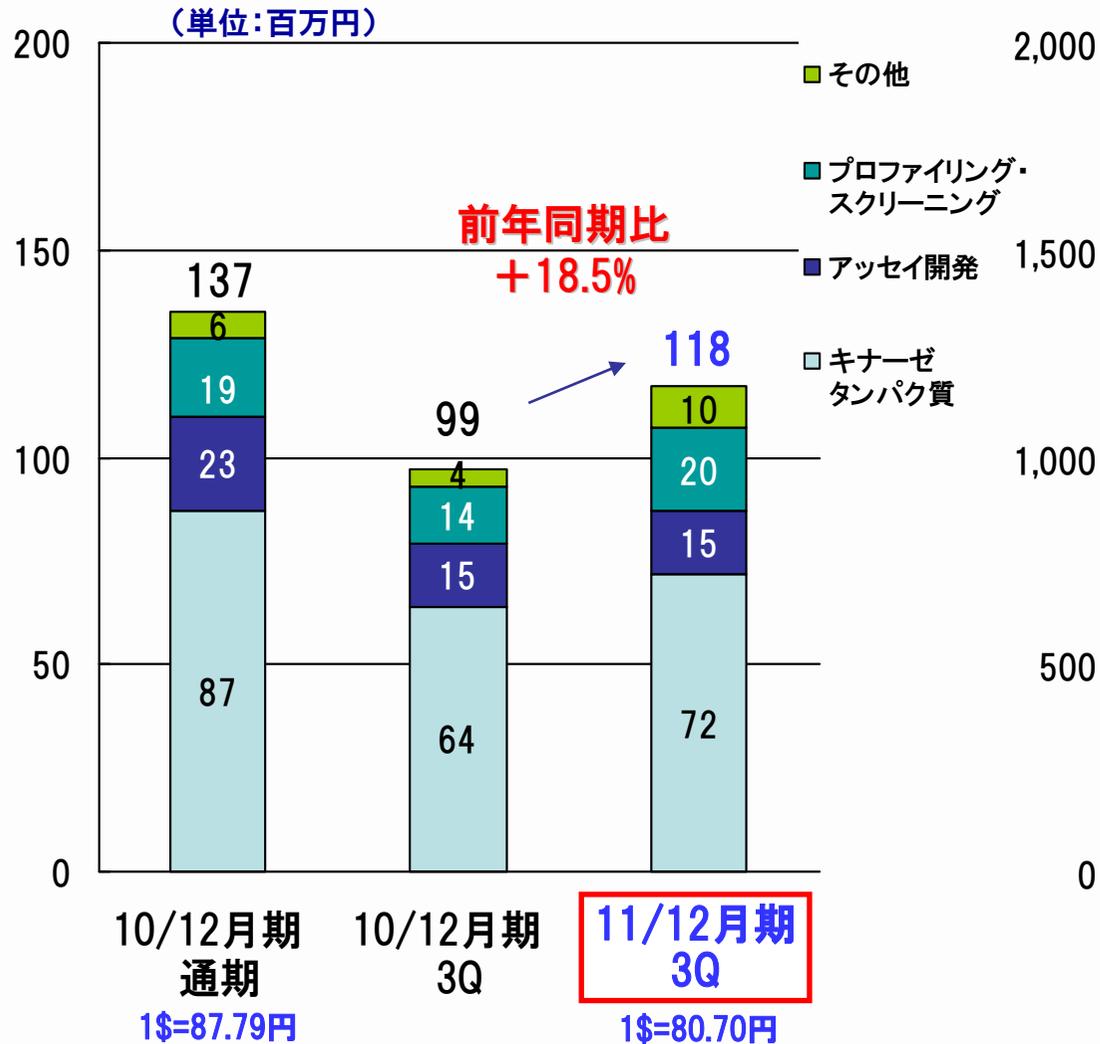


- ・タンパク質販売は前年同期比22.2%増 (対通期計画進捗率66.4%)
⇒円高等の影響があったものの、全地域で前年同期より増加
- ・プロファイリング・スクリーニングサービスは前年同期比0.6%減 (対通期計画進捗率72.8%)
⇒米国での売上を伸ばす。国内は減少。
- ・アッセイ開発は前年同期比22.9%減 (対通期計画進捗率45.2%)
- ・その他は前年同期比50.3%減 (対通期計画進捗率58.6%)
⇒OSIとの協業であったリード探索サービス売上がなくなったことによる

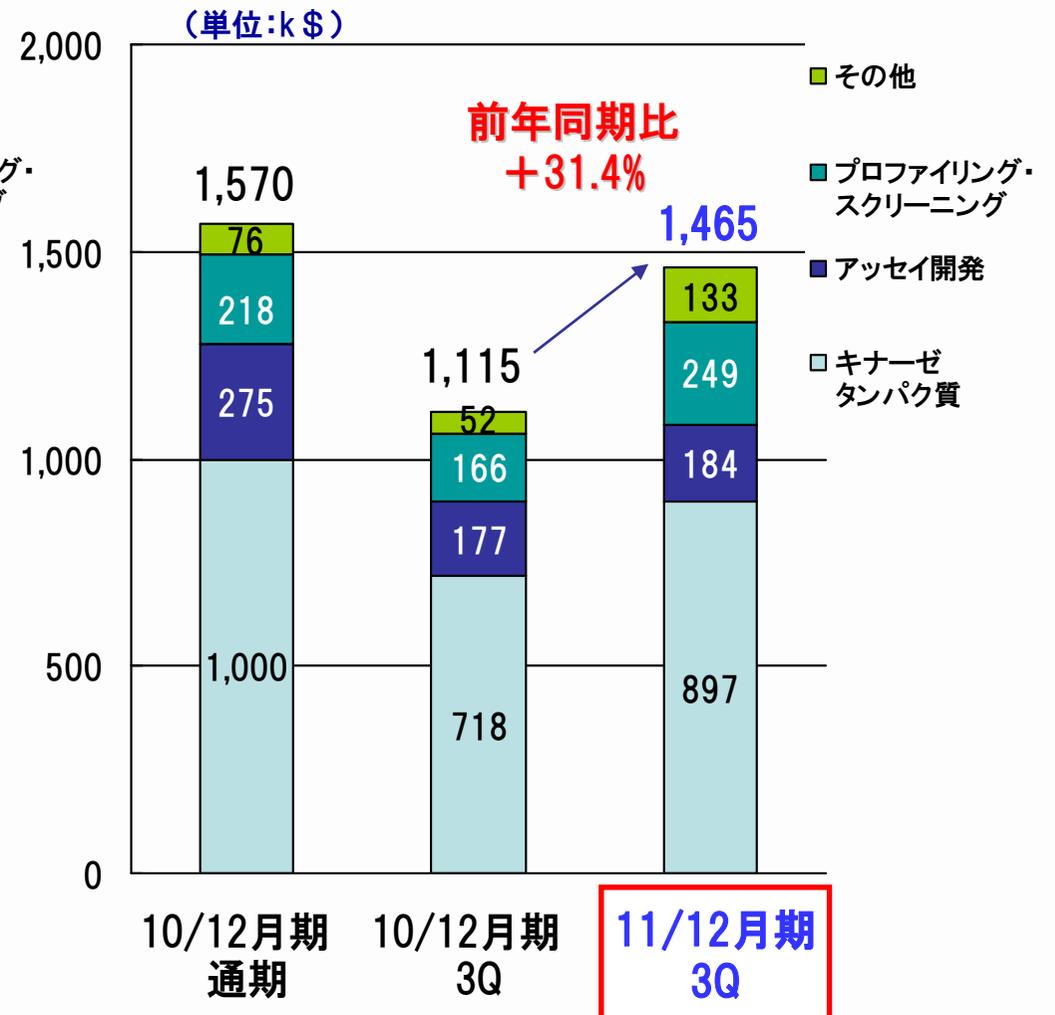


製品別売上高(円換算)

円高の
影響大



製品別売上高(US\$)



- ✓ 売上高の改善に伴い、売上総利益、営業利益が改善（海外売上が改善）
- ✓ 経常利益は、営業利益の改善及び補助金収入の増加等により改善
- ✓ 特別損失(投資有価証券評価損)の計上により四半期純利益は悪化

(百万円)

		2011年12月期 3Q累計実績	2010年12月期 3Q累計実績	前年同期比 (増減)	主な増減理由
売上	創薬支援事業	428	411	17	海外売上の増加(対前年同期比21.5%増)等による
	創薬事業	19	21	△2	
	合計	447	432	14	
売上原価		144	146	△2	
売上総利益		303	285	17	
販管費	研究開発費	279	262	17	
	販管費 (研究開発費を除く)	311	323	△12	経費削減効果による
	合計	590	586	4	
営業利益		△287	△300	12	
営業外損益		54	30	23	補助金収入の増加
経常利益		△232	△269	36	
特別損失		69	24	44	資産除去債務基準適用影響額+投資有価証券評価損
四半期純利益		△309	△296	△12	投資有価証券評価損の影響

(単位:百万円)

	2011年12月期 第3四半期末	2010年12月末	増減額	増減理由
流動資産	1,235	1,456	△220	
現金及び預金	815	943	△128	
有価証券	200	300	△100	譲渡性預金の減少
その他	220	213	7	
固定資産	166	199	△33	投資有価証券評価減等
資産合計	1,401	1,656	△254	
負債合計	305	290	15	長期借入金の増減、預り金の減少(補助金の収益計上等)等による
純資産合計	1,096	1,365	△269	
負債・純資産合計	1,401	1,656	△254	

(単位:百万円)

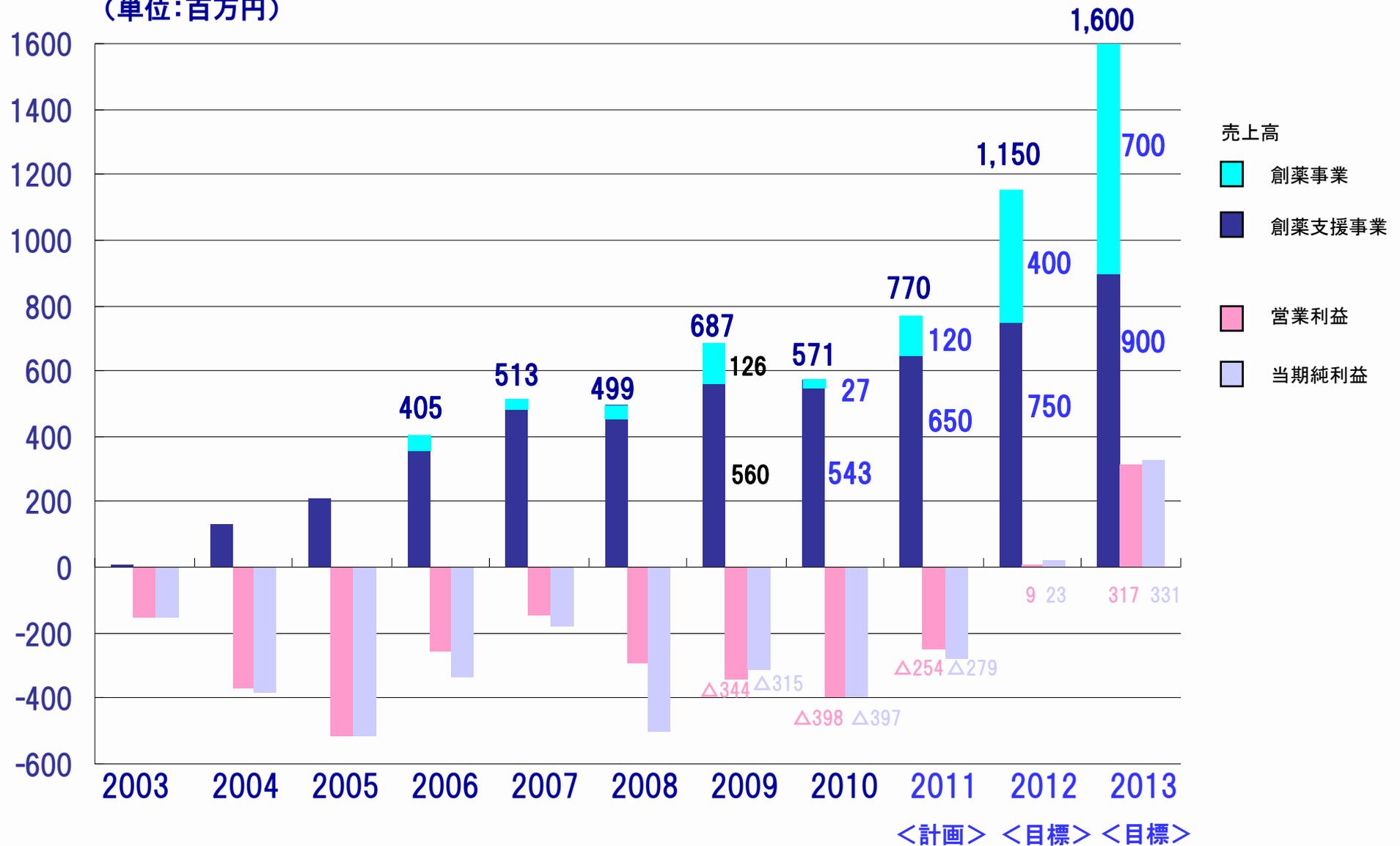
	2011年12月期 第3四半期累計期間	2010年12月期 第3四半期累計期間	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	△263	△266	3
投資活動による キャッシュ・フロー	1	△42	44
財務活動による キャッシュ・フロー	33	53	△19
増減額	△228	△256	28
現金及び 現金同等物の残高	945	1,233	△288

設備投資の減少

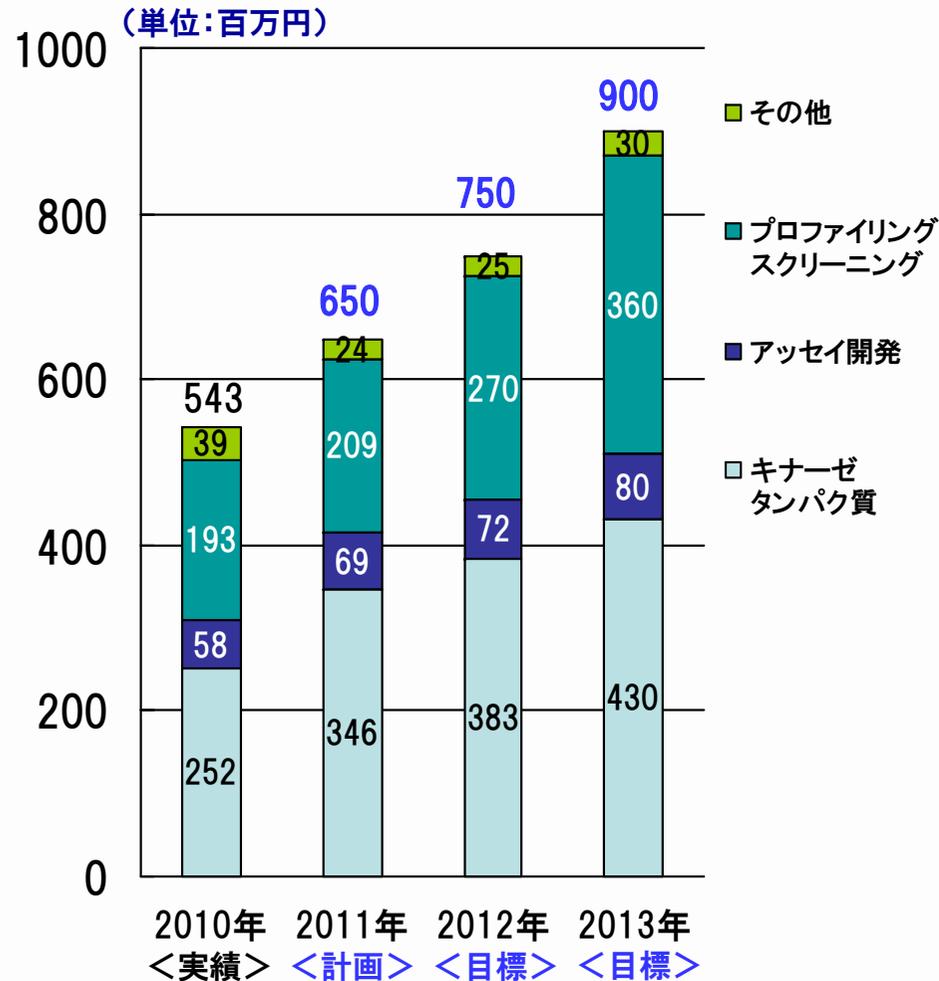
2011年～2013年12月期 中期事業計画 (マイルストーン開示)

売上高、営業損益予測(連結)

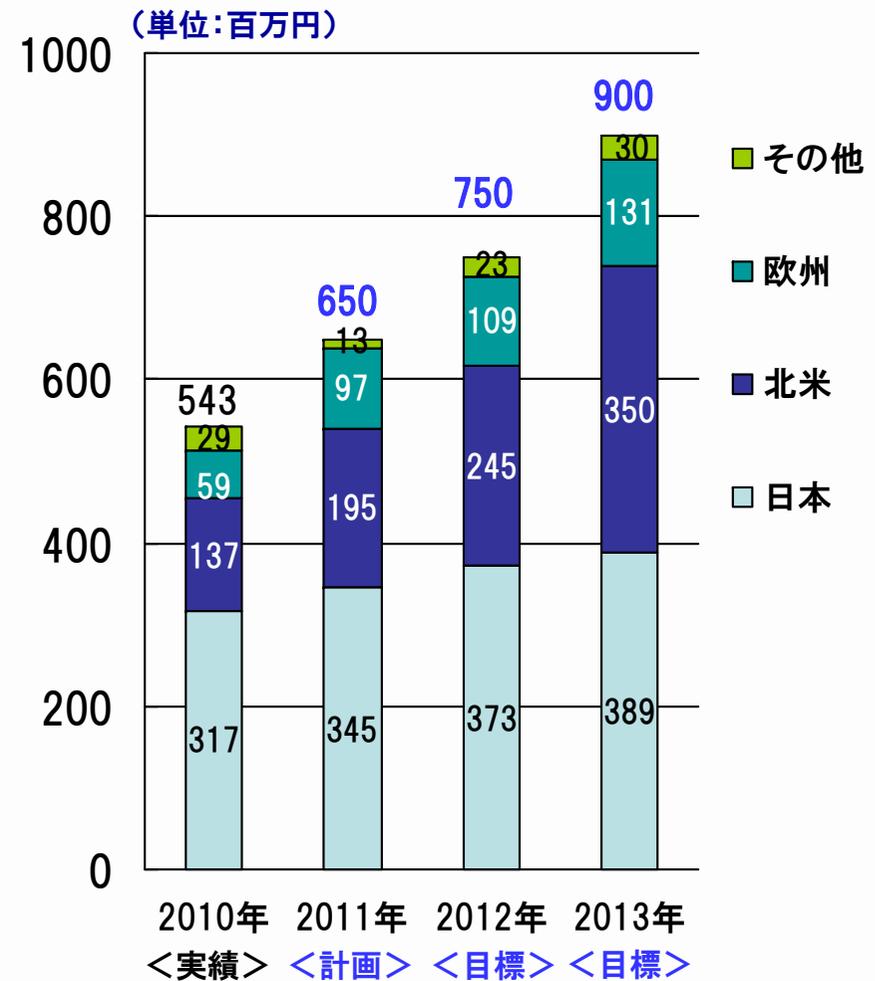
(単位:百万円)



製品別売上高



地域別売上高



•欧米での売上拡大に取り組み中

学術要員による対応強化(提案型営業の推進)
フランス代理店の早期立ち上げ



•アジア市場への取り組み強化

中国、インド市場における売上拡大(代理店販売力強化)

•顧客ニーズに応じた製品・サービスの提供

ビオチン化タンパクなどの新製品の品揃え強化
オンリーワン商品・サービスの開発



•プロファイリング・スクリーニングサービスの売上増

7月より新プロファイリングサービスの稼働
⇒リードタイム短縮 ⇒ 米国での売上増

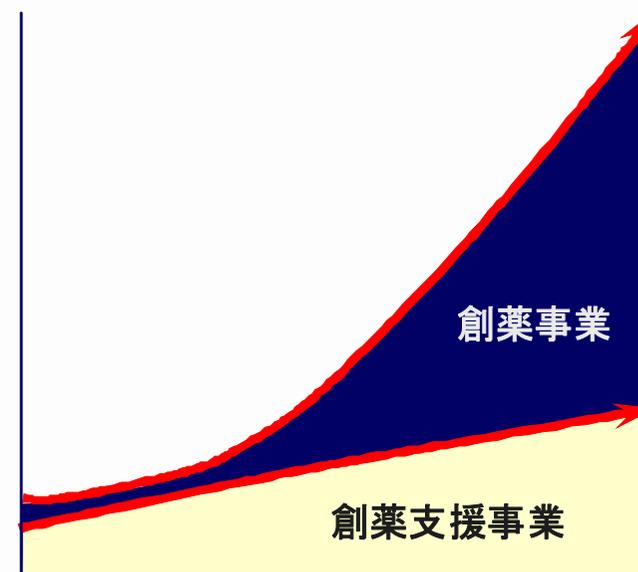


- ガンを継続的に重点領域とする
- 研究パートナーとのアライアンスの活用(がん研究センター、キノファーマ等)
- 2011年12月期に1テーマの導出又は探索から前臨床へのステージアップを達成する
- 事業開発を中心に導出活動を実施
- 薬理機能の強化

ステージアップ数	前臨床⇒臨床 (又は導出)		1	1
	探索⇒前臨床 (又は導出)	1	2	2
研究テーマ数		5	5	5
		2011年 12月期	2012年 12月期	2013年 12月期



1. 当社の創薬事業は、従来の創薬ベンチャーとは異なり、膨大なコストと開発中止のリスクが高い第3相臨床試験(PIII)以降の段階は手掛けず、それ以前のいずれかの段階で大手製薬企業に化合物を導出するビジネスモデルを想定しております。
2. 当社は創薬支援事業においては2006年12月期以降黒字化しております。
今後も創薬支援事業での売上が伸びることで、2012年12月期には、会社全体として黒字化を目指します。
3. 当社は、ガンなどを対象疾患とするキナーゼ阻害薬の創薬研究をスピーディーに進めてまいりますが、一般的には、創薬の成果が実るには長い年月がかかることをご理解下さい。
4. 中長期的には成長トレンドにあるため、カルナバイオサイエンスの株式は、中長期的視野で保有していただきたく存じます。



今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac(心臓)の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物学と言われ、生物学(Biology)と生命科学(Life Science)から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀に向けて、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

カルナバイオサイエンス株式会社
経営管理本部 経営企画部
〒650-0047
兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F
Tel (078)302-7075 Fax (078)302-6665
<http://www.carnabio.com/>
ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。